

# COMPANY RESEARCH AND ANALYSIS REPORT

|| 企業調査レポート ||

## 不二精機

6400 東証スタンダード市場

[企業情報はこちら >>>](#)

2025年3月28日(金)

執筆：客員アナリスト

岡本 弘

FISCO Ltd. Analyst **Hiroshi Okamoto**



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

## 目次

■ 要約	01
1. 2024年12月期の業績概要	01
2. 2025年12月期の業績見通し	01
■ 会社概要	02
1. 会社概要	02
2. 事業内容	05
3. 同社事業を取り巻く環境	07
■ 業績動向	09
1. 2024年12月期の業績概要	09
2. 財務状況	11
■ 今後の見通し	13
1. 2025年12月期の業績見通し	13
2. 事業別見通し	13
■ 中長期の成長戦略	14
■ 株主還元策	18

## ■ 要約

### 2024年12月期は、売上高はほぼ横ばいで減益も、 2025年12月期は増収及び2ケタの経常増益を見込む

不二精機<6400>は、1965年に大阪市生野区で精密プラスチック金型の製造及び販売を目的に設立した企業である。以来、プラスチック成形用精密金型の製造技術を基盤として、精密成形品その他事業も開始し、射出成形用精密金型及び成形システム事業と精密成形品その他事業の2事業で事業展開している。

同社は、高度な金型設計ノウハウと加工技術を有し、1) ハイサイクル、2) 多数個取り、3) 不良率・バラツキの極小化、4) 長寿命を特徴とした、高付加価値な精密金型製造を行っている。また精密成形品その他事業では、精密金型の競争力を活用し、参入障壁の高い自動車関連部品分野を中心に事業展開を行っている。

#### 1. 2024年12月期の業績概要※

2024年12月期の連結業績は売上高8,251百万円(前期比0.1%減)、営業利益404百万円(同4.7%減)、経常利益328百万円(同17.3%減)、親会社株主に帰属する当期純利益139百万円(同40.2%減)となった。事業別では、射出成形用精密金型及び成形システム事業は売上高2,575百万円(同12.5%減)、営業利益79百万円(同64.6%減)と低迷した。精密成形品その他事業は、売上高5,676百万円(同6.7%増)、営業利益343百万円(同68.0%増)と自動車向けの好調により増益となった。全体として売上げの伸び悩みや円安もあり売上総利益率が若干向上したものの、EV向けなどの開発本格化、人件費増などで販管費が増加する等、利益が伸び悩む結果となった。

※ 業績概要中の事業別営業利益には、セグメント内取引を含む。

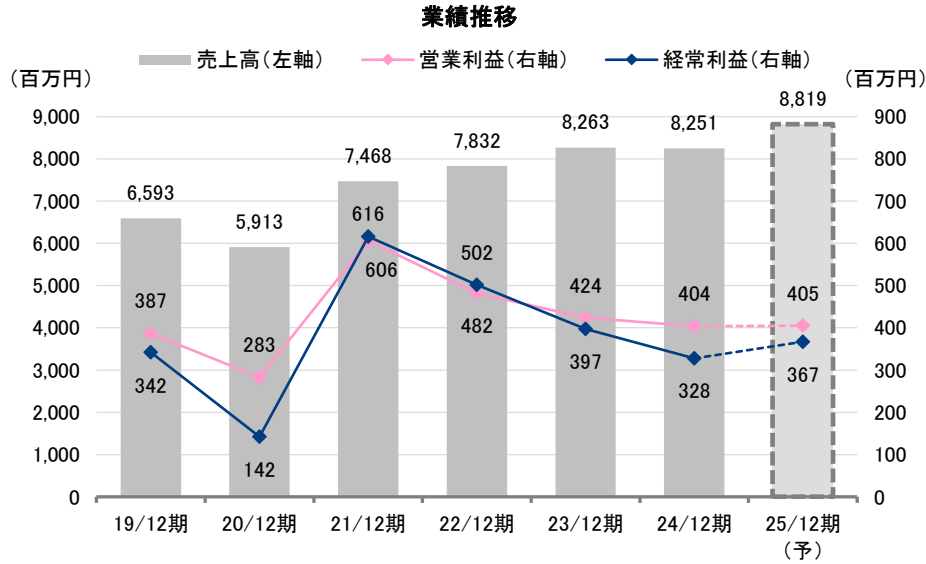
#### 2. 2025年12月期の業績見通し

2025年12月期の連結業績は、売上高8,819百万円(前期比6.9%増)、営業利益405百万円(同0.0%増)、経常利益367百万円(同11.7%増)、親会社株主に帰属する当期純利益226百万円(同62.3%増)を見込んでいる。精密金型は医療用を中心に日本に加え中国で大幅増収を目指す。一方、精密成形品は東南アジアで自動車の伸び悩みで減収を見込み、同部門全体でも減収を見込む。営業利益面では材料費の高止まり、円安効果の剥落から売上総利益率が若干低下、販管費比率は人件費などのコスト増から横ばいを想定し、営業利益も横ばいを見込んでいる。

#### Key Points

- ・ 2024年12月期は、売上高はほぼ横ばいで減益
- ・ 2025年12月期は増収及び2ケタの経常増益を見込む
- ・ 医療用精密金型の受注に注力し、収益拡大を目指す

要約



出所：決算短信、決算説明資料よりフィスコ作成

## ■ 会社概要

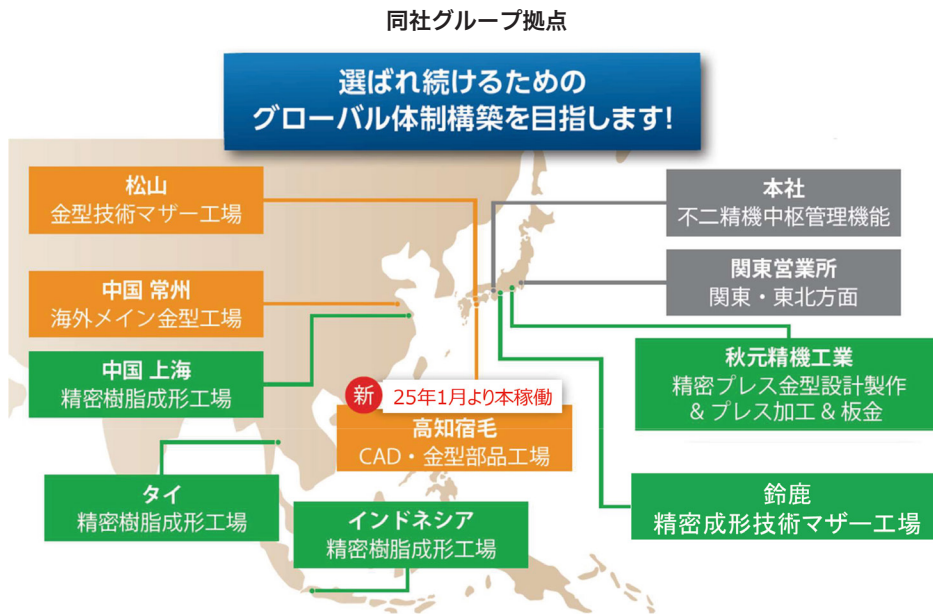
### 高精度精密プラスチック金型技術を強みに、 精密金型事業と射出成形事業の2事業で事業展開

#### 1. 会社概要

同社は、1955年3月、初代代表取締役社長の伊井幸雄(いいゆきお)氏が個人企業「三協金型製作所」として創業、1965年には大阪市生野区に精密プラスチック金型の製造及び販売を目的に、不二精機(株)として設立した。その後、高精度精密プラスチック金型の製造を専業とし事業を拡大した。特に1995年にはCD(コンパクトディスク)プラスチックケース用精密金型の量産タイプを開発し、売上げが急拡大した。その後の日本の金型市場の縮小に対応し、2001年にアジアでの生産拠点としてTHAI FUJI SEIKI Co., Ltd.を設立し、海外連結子会社の設立を加速させ、自動車及び2輪車向け射出成形品事業を中心に事業拡大を行った。また、2019年12月期にグループ化した秋元精機工業(株)は、板金プレス部品、インサート成形部品製造を展開しており、今後は鈴鹿工場を拠点に電気自動車(EV)関連部品向けに金属と樹脂が一体となった金属端子やコネクタ部品などにも事業展開している。

会社概要

射出成形用精密金型及び成形システム事業においては松山工場と中国常州工場を拠点とし、精密成形品その他事業については上海、タイ、インドネシアの3海外生産拠点と秋元精機工業で事業展開している。同社単体では主力の松山工場を中心に製造を行っていたが、2023年10月には精密成形技術マザー工場として鈴鹿工場が稼働、2025年にはEV関連部品の製造を本格的に行う予定である。また高知県宿毛市でCAD・金型部品工場を立ち上げ、2025年1月より本稼働を始めた。



出所：決算説明資料より掲載

不二精機 | 2025年3月28日(金)  
6400 東証スタンダード市場 | <https://www.fujiseiki.com/ir/>

### 会社概要

### 会社沿革

年月	主な沿革
1965年 7月	大阪市生野区に資本金 2,000 千円をもって不二精機株式会社を設立し、精密プラスチック金型の製造及び販売を開始
1972年 3月	愛媛県東温市に松山工場を新設、プラスチックの成形品の製造・販売を開始
1972年 4月	東大阪市に本社工場を新築移転し、精密プラスチック金型の製造を拡大
1977年11月	大阪市生野区に FTC (エフティック) 研究所を新設、更に精密なプラスチック金型の製造を開始
1983年 4月	VHS ビデオカセットテープ用精密金型を開発し、販売を開始
1983年 5月	一眼レフカメラ鏡筒用精密金型を開発し、販売を開始
1984年 5月	3.5 インチフロッピーディスク用精密金型を開発し、販売を開始
1984年12月	CD (コンパクトディスク) 研究開発用精密金型を開発
1986年 7月	東京都港区に東京営業所を設置
1989年10月	同社の精密金型と成形周辺機器を組み合わせた情報関連用成形システムの販売を開始
1990年 4月	リサイクルカメラ (レンズ付きフィルム) 用精密金型を開発、販売を開始
1993年 1月	マグネシウム casting 用精密金型を開発、販売を開始
1994年 2月	MD (ミニ・ディスク) 用精密金型を開発、販売を開始
1995年 3月	奈良県橿原市に本社工場を移転
1995年 5月	CD (コンパクトディスク) プラスチックケース用精密金型の量産タイプを開発、成形システムとして輸出販売を開始
1996年 5月	プラスチックカップ (航空会社向けディスプレイ容器) 用精密金型の量産タイプを開発、成形システムとして販売を開始
2001年 1月	金型とプラスチック成形品のタイにおける生産拠点として、THAI FUJI SEIKI CO., Ltd. (現 連結子会社) を設立
2001年 8月	日本証券業協会に株式を店頭登録
2001年 9月	金型とプラスチック成形品の中国における生産拠点として、上海不二精機有限公司 (現 連結子会社) を設立
2001年12月	金型設計及びエンジニアリングの中国における設計技術サービス拠点として、蘇州不二設計技術有限公司を設立
2002年 3月	プラスチック成形品の中国における生産拠点として、蘇州不二精機有限公司を設立
2002年11月	金型とプラスチック成形品の中国における生産拠点として、常州不二精機有限公司 (現 連結子会社) を設立
2003年 3月	奈良本社工場及び FTC (エフティック) 研究所を松山工場に移転統合
2003年 6月	大阪市生野区に本社機能を移転
2004年 5月	上海不二精機有限公司で工場 2 棟を増設し、クリーンルームでの成形品の二次加工を開始
2004年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場
2005年10月	CSR の一環として環境方針を発表
2006年 3月	蘇州不二精機有限公司にクリーンルームを増設し、導光板の成形を開始
2007年10月	ISO14001 取得
2008年 1月	ISO9001 取得
2010年12月	蘇州不二精機有限公司と蘇州不二設計技術有限公司を合併
2011年 1月	千葉県佐倉市に関東工場・関東営業所を新設
2012年10月	金型とプラスチック成型品のインドネシアにおける生産拠点として、PT. FUJI SEIKI INDONESIA を設立
2014年12月	蘇州不二精機有限公司を譲渡
2016年 5月	関東工場の生産機能を松山工場に集約し、関東営業所を千葉県船橋市に移転
2017年 3月	2004 年 12 月期以来となる配当を再開 (1 株当たり 3 円)
2017年 7月	本社を大阪市中央区に移転
2019年 9月	秋元精機工業株式会社 (本社：横浜市都筑区) をグループ会社化 (100% 出資)
2021年10月	インドネシア連結子会社の発行済株式を追加取得し完全子会社化
2022年 4月	東京証券取引所の市場区分の見直しにより、東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード) からスタンダード市場に移行
2023年10月	三重県鈴鹿市に鈴鹿工場を操業開始
2025年 1月	高知県宿毛市に CAD 設計、金型の部品加工などを手がける高知宿毛工場が本稼働

出所：有価証券報告書、決算説明資料、同社資料よりフィスコ作成

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項 (ディスクレマー) をお読みください。

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

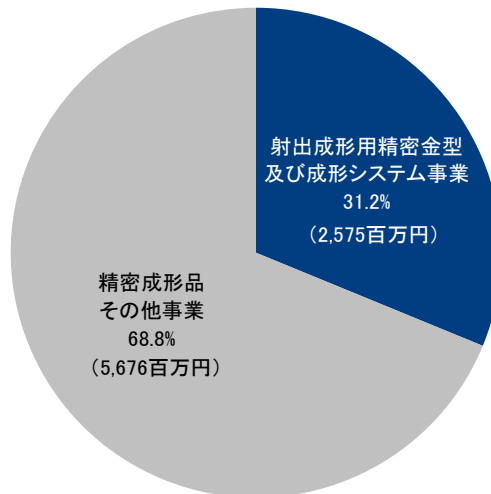
会社概要

2. 事業内容

同社は、現在は射出成形用精密金型及び成形システム事業と精密成形品その他事業の2事業で事業展開している。射出成形用精密金型及び成形システム事業では高度な金型設計ノウハウと加工技術を有し、1) ハイサイクル、2) 多数個取り、3) 不良率・バラツキの極小化、4) 長寿命を特徴とした、高付加価値な精密金型製造を行っている。具体的には精密・高品質が求められる透析装置であるダイアライザーや注射器、製品コストの削減も求められる食品用キャップ・容器等がある。また精密成形品その他事業では、精密金型の競争力を活用し、参入障壁の高い自動車関連部品分野に絞り事業展開している。

2024年12月期における売上構成比は、射出成形用精密金型及び成形システム事業が31.2%、精密成形品その他事業が68.8%となっている。また営業利益構成比（セグメント間取引消去前）では射出成形用精密金型及び成形システム事業が18.8%、精密成形品その他事業が81.2%となっている。

2024年12月期セグメント売上高構成比



注：外部顧客への売上高  
出所：決算短信よりフィスコ作成

(1) 射出成形用精密金型及び成形システム事業

射出成形用精密金型及び成形システム事業は、ハイサイクル（高性能）、ロングライフ（長寿命）、多数個取り、不良率・バラツキの極小化による安定化などを強みに事業展開してきた。代表的な製品はCD用プラスチックケース向け精密金型並びに周辺機器を組み合わせた成形システムである。CDは1979年にソニーグループ<6758>とRoyal Philips<PHG>が共同開発を進め、1982年に生産を開始したが、同社は当初からCDケース用精密金型、周辺装置と組み合わせて成形システムとして輸出販売も含め事業を拡大した。「ディスクケース」成形はミクロン精度かつ低コスト化の要求から、ハイサイクル、多数個取り技術、長寿命の金型が必須で、採用が広がったが、スマートフォンの普及、ネット配信などでCD市場の縮小とともに減少した。



会社概要

このような事業環境を見越して、同社は CD ケース用で培った金型技術を生かし、1997 年 9 月に現在の主力の 1 つである注射器用精密金型を開発した。同分野では単位当たりの生産量を増やせる多数個取り金型を製作、多数個取りでも製品品質のバラツキのない安定生産を実現した。その後、ダイアライザー、シャーレ、点滴用品などの医療分野へ注力した。2024 年 12 月期における医療用・食品容器用精密金型の売上高はダイアライザー向け等を中心に 1,306 百万円、セグメント売上高に対する構成比は 50.7% である。現在中心となっているダイアライザー成形では、原材料が PP 中心（一部 PC もある）のため、収縮率が大きく安定成形が困難な材質であるが、冷却方式などを改善、サイクルタイムの短縮、安定した品質確保に成功し、内外のダイアライザーメーカーに供給している。なお、同分野は収益性が高く、精密金型全体における大半の利益を稼ぎ出しているようだ。

射出成形用精密金型及び成形システム事業の主要製品



出所：決算説明資料、同社株主通信より掲載

**(2) 精密成形品その他事業**

精密成形品その他事業は、精密金型で培ったノウハウを生かし、2001 年 1 月にタイに THAI FUJI SEIKI Co., Ltd. を設立したことに始まる。同年 9 月に中国上海、2002 年 3 月に蘇州と、相次いで生産拠点を設けた。当初の成形品は CD ケース、デジカメのオートフォーカスレンズ鏡筒部品が中心だったが、CD の衰退により蘇州工場は 2014 年に譲渡し全面撤退した。

一方で、非情報関連の長期的拡大を目指し、自動車関連事業をターゲットとした。タイで納入していた精密金型の技術力が評価され、本田技研工業 <7267> 系の日立 Astemo(株) に 2 輪向けインジェクター（エンジンとスロットルボディやキャブレターと接続する樹脂製パーツ）の成形品を納入し始めた。その後、住友電装(株) 向けにワイヤーハーネスの留め具などを供給し、Tier2 となる日系自動車部品現地法人向けを中心に、2 輪向け主体から 4 輪向けにも安全保安部品などの小物自動車部品成形品が拡大している。現在は精密成形品の中で自動車用（2 輪・4 輪合計）が 5 年前の 70.5% から 81.0% まで高まっている。なお 2 輪向け 50% 強、4 輪向け 50% 弱となっているようだ。製品内容はパワートレーン系、ワイヤーハーネスのカバー等の非パワートレーン系でほぼ 2 分されている。

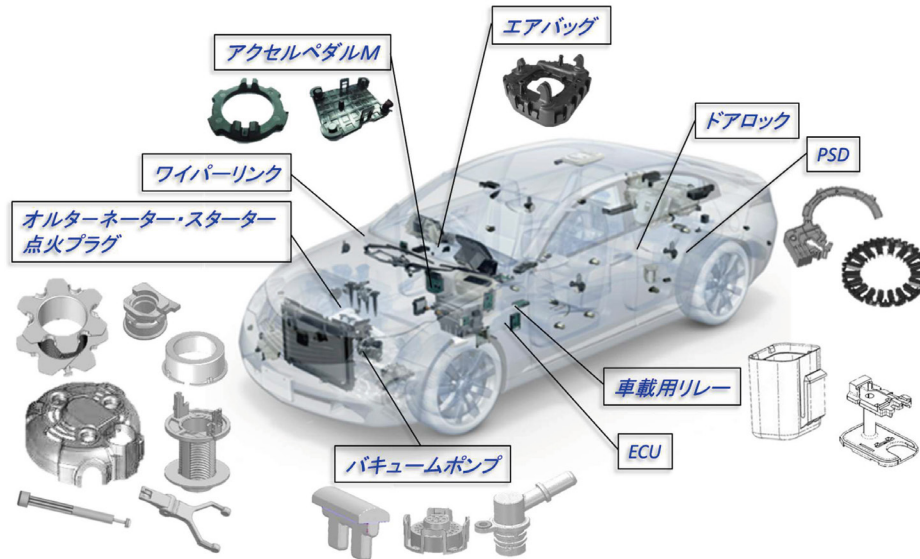


会社概要

同事業の収益力が2019年12月期以降に安定してきた背景には、蘇州からの撤退に加え、先行投資負担が大きかったインドネシア子会社（9月決算）の売上げが順調に拡大したことが寄与したと言える。

自動車関連分野での精密成形品例

主力の自動車関連部品



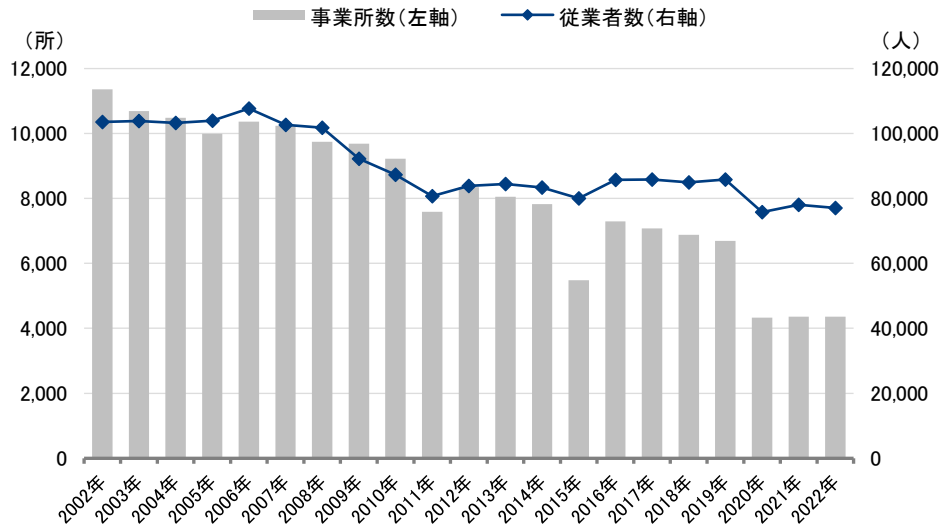
出所：決算説明資料より掲載

3. 同事業を取り巻く環境

同社が属する金型製造業界は、経済産業省「2023年製造業事業所調査」によると2023年時点で業界全体の金型生産額が推定1兆3,395億円とある。同業界で最大の出荷規模を誇るのがプレス用金型で、製造業事業所調査（2022年実績品目別生産額）では全体の1兆2,774億円に対し4,367億円（構成比34.2%）、同社が製造しているプラスチック用金型の生産額は4,031億円（同31.6%）と、用途別では2番目に大きい。しかし金型業界全体の推移を見ると、バブル期の1991年の製造品出荷額1兆9,575億円をピークに徐々に業界全体が低迷した。リーマンショック後の2010年には1兆873億円まで落ち込み、現状は1991年の出荷額の68.4%水準となっている。この間、金型製造事業所も減少を続けており、ピーク時は1990年に13,115事業所あったのが、2022年には4,357事業所と33.2%の水準となっている。

会社概要

金型製造業事業所数・従業員数推移



出所：製造業事業所（旧工業統計）調査資料よりフィスコ作成（2011年、2015年、2020年は製造業事業所（旧工業統計）調査非実施により経済センサスより作成）

この背景には主力産業の国内生産の低迷、グローバル化による海外での金型生産並びに汎用製品での海外金型企業への調達増などが影響しており、大きく減少しているのは9人以下の事業所で、同社のような100人以上の事業所は90前後で推移している。このため、100人以上の金型製造事業者の1件当たり生産額は傾向値として増大しており、金型業界の再編、淘汰が進んでいると見られる。

同社はこのような金型産業の動向を踏まえ、精密金型において医療機器の開発・製造・販売など、参入障壁が高い分野に事業領域を広げた。難易度の高い金型分野に活路を見出すことで、金型の付加価値化を高め、収益性の維持を図った。また精密金型技術を生かした精密成形品その他事業において、金型のメンテナンスも含め東南アジア中心に拡大する自動車産業向けに、プラスチック精密成形品の展開に注力し事業拡大を目指すこととして、積極的な海外展開を推進してきた。

## 業績動向

### 2024年12月期は、売上高はほぼ横ばいで減益

#### 1. 2024年12月期の業績概要

2024年12月期の連結業績は売上高 8,251 百万円（期初計画比 330 百万円未達、11月13日修正予想比 175 百万円未達、前期比 0.1% 減）、営業利益 404 百万円（同 18 百万円増額、同 52 百万円増額、同 4.7% 減）、経常利益 328 百万円（同 26 百万円未達、同 29 百万円増額、同 17.3% 減）、親会社株主に帰属する当期純利益 139 百万円（同 86 百万円未達、11月13日修正予想は未定で比較なし、同 40.2% 減）となった。売上高が計画に対し未達成だったものの、営業利益では年後半からの医療用精密金型の回復があり、加えて円安影響もあったため、営業利益で上振れて着地した。

#### 2024年12月期連結業績

（単位：百万円）

	23/12 期		24/12 期		前期比
	実績	売上比	実績	売上比	
売上高	8,263	100.0%	8,251	100.0%	-0.1%
射出成形用精密金型及び成形システム事業	2,942	35.6%	2,575	31.2%	-12.5%
精密成形品その他事業	5,320	64.4%	5,676	68.8%	6.7%
売上総利益	1,580	19.1%	1,601	19.4%	1.3%
営業利益	424	5.1%	404	4.9%	-4.7%
射出成形用精密金型及び成形システム事業	225	2.7%	79	1.0%	-64.6%
精密成形品その他事業	204	2.5%	343	4.2%	68.0%
経常利益	397	4.8%	328	4.0%	-17.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	232	2.8%	139	1.7%	-40.2%

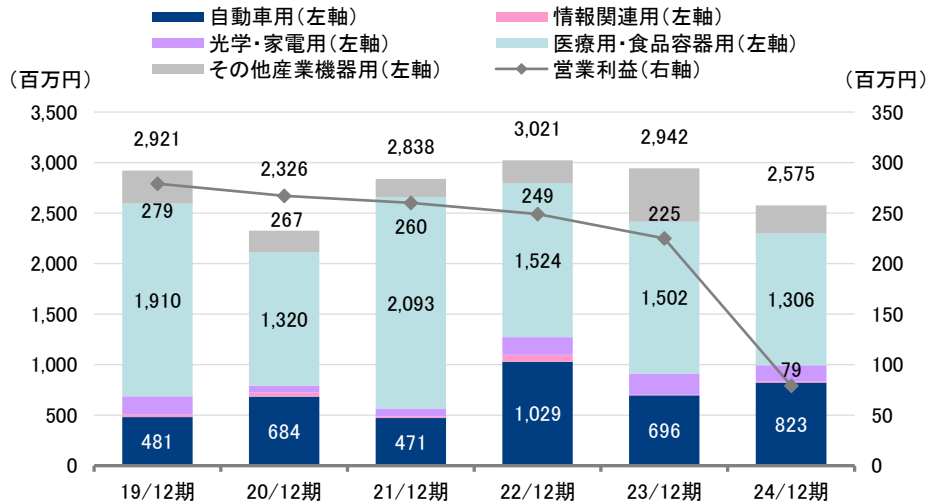
出所：決算短信、決算説明資料よりフィスコ作成

事業別では、射出成形用精密金型及び成形システム事業は売上高 2,575 百万円（期初計画比 381 百万円未達、前期比 12.5% 減）、営業利益 79 百万円（同 64.6% 減）となった。収益性の高い医療用・食品容器用精密金型の売上高が 1,306 百万円（同 13.0% 減）と、下期に回復も通期では不調で伸び悩み、全体で減収となったことが響いた。

不二精機 | 2025年3月28日(金)  
6400 東証スタンダード市場 | <https://www.fujiseiki.com/ir/>

業績動向

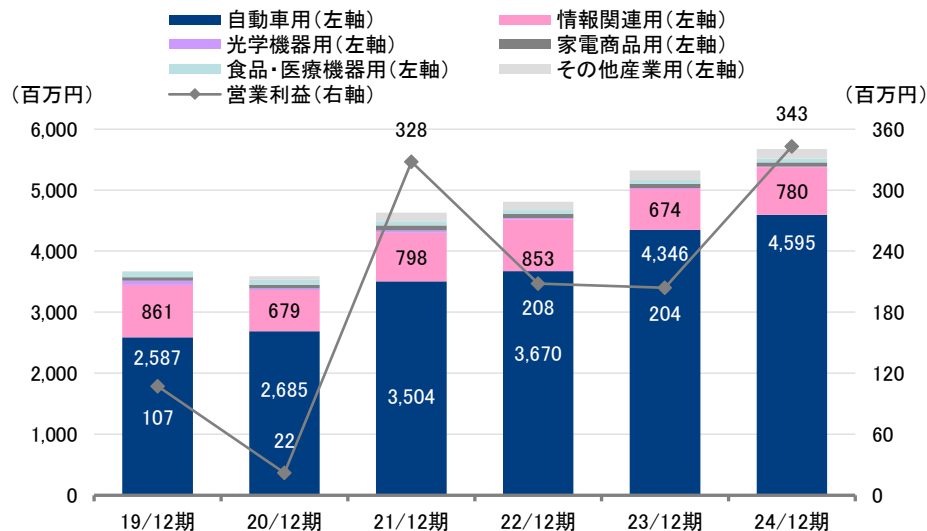
**射出成形用精密金型及び成形システム事業の  
分野別売上高・営業利益推移**



出所：決算短信、決算説明資料よりフィスコ作成

精密成形品その他事業は、売上高 5,676 百万円（期初計画比 51 百万円増額、前期比 6.7% 増）、営業利益 343 百万円（同 68.0% 増）となった。売上面では主力の自動車部品用成形品が 4,595 百万円（同 5.7% 増）と堅調な伸びを示した。自動車生産は伸び悩んだものの、2 輪が堅調に推移、利益面では増収効果に加え品質管理強化や円安影響もあり、利益率の改善が進み大幅増益となった。現地子会社の収益もタイ、インドネシアともに経常増益となった。

**精密成形品その他事業の分野別売上高・営業利益推移**

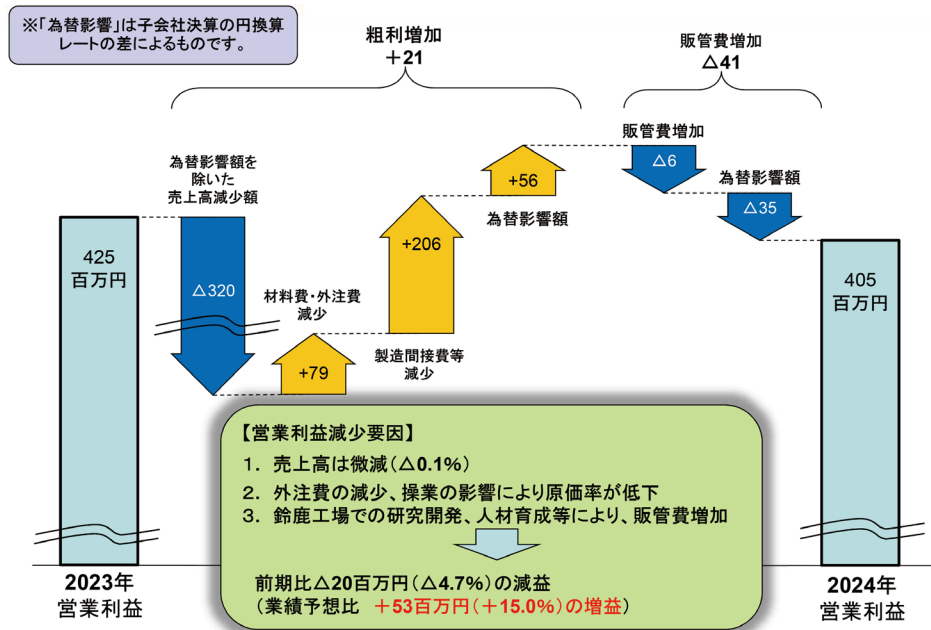


出所：決算短信、決算説明資料よりフィスコ作成

業績動向

全社の営業利益の増減では、総利益面では為替影響を除いた減収影響で320百万円のマイナス影響に対し、製造関連費用の削減効果、為替円安影響などのプラス効果があり、21百万円の増益であった。一方で販管費では研究開発、人材育成などのコスト増、海外子会社の円安によるコスト増などで41百万円の減益要因が残り、全体で前期比20百万円の営業利益減となった。

2024年12月期 連結営業利益の対前期増減要因



出所：決算説明資料より掲載

## 財務状況は改善傾向も、さらなる財務体質の強化が必要

### 2. 財務状況

収益の長期低迷後に海外での収益基盤が安定したことで純資産が増加し、自己資本比率は2024年12月期末に37.2%まで向上した。また、キャッシュ・フローについては、海外工場の設備増強が一巡したことで、2021年12月期にフリーキャッシュ・フローが2018年12月期以来のプラスに転じて以降プラスが続いている。ただし、2024年12月期は収益の伸び悩みの中で国内での有形固定資産取得による支出666百万円などがあり、フリーキャッシュ・フローが前期比半減の238百万円まで減少した。

## 業績動向

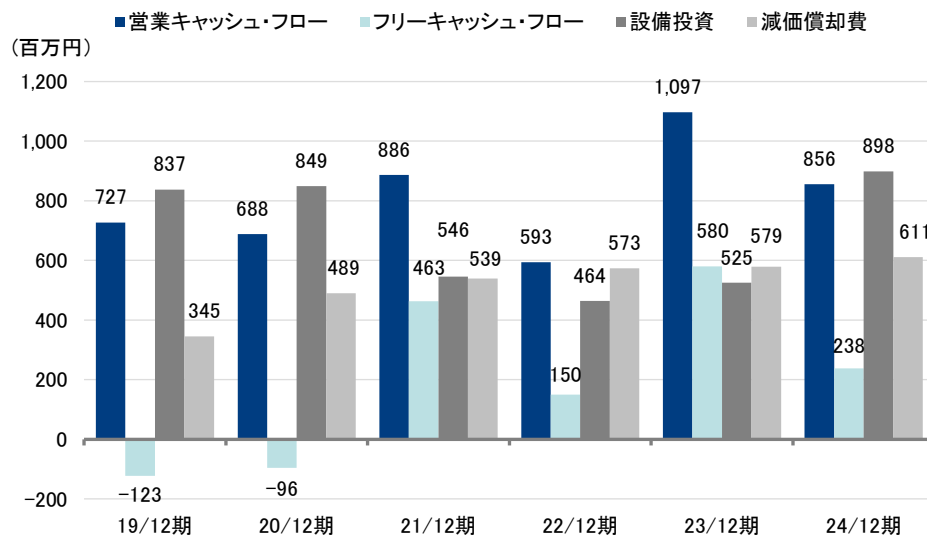
## 連結貸借対照表及び経営指標

(単位：百万円)

	22/12期	23/12期	24/12期	増減
流動資産	4,577	4,180	4,783	602
固定資産	4,213	4,321	4,653	332
総資産	8,790	8,501	9,437	935
流動負債	4,139	3,660	4,016	356
固定負債	1,850	1,662	1,908	245
負債合計	5,989	5,322	5,925	602
純資産	2,800	3,178	3,511	333
<b>&lt;安全性&gt;</b>				
流動比率	110.6%	114.2%	119.1%	4.9pp
自己資本比率	31.9%	37.4%	37.2%	-0.2pp

出所：決算短信、決算説明資料よりフィスコ作成

## キャッシュ・フローと設備投資・減価償却費の推移



出所：決算短信、決算説明資料よりフィスコ作成

## ■ 今後の見通し

### 2025年12月期は増収及び2ケタの経常増益を見込む

#### 1. 2025年12月期の業績見通し

2025年12月期の連結業績は、売上高8,819百万円（前期比6.9%増）、営業利益405百万円（同0.0%増）、経常利益367百万円（同11.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益226百万円（同62.3%増）を見込んでいる。国内に加え中国市場を中心に医療用精密金型の大幅拡大を見込むも、一方で自動車向け精密成形品の売上げ減を想定している。利益面では材料費の高止まり、円安一巡から売上総利益率は若干低下の見込みであり、EV用部品等の開発が本格化することから販管費は増収効果でも販管費比率は横ばいに留まるとして、営業利益も横ばいの見通しとしている。経常利益は為替変動分を加味せず、増益を見込む。

#### 2025年12月期 連結業績見通し

（単位：百万円）

	24/12期		25/12期		
	実績	売上比	予想	売上比	前期比
売上高	8,251	100.0%	8,819	100.0%	6.9%
売上総利益	1,601	19.4%	1,684	19.1%	5.2%
販管費	1,196	14.5%	1,279	14.5%	6.9%
営業利益	404	4.9%	405	4.6%	0.0%
経常利益	328	4.0%	367	4.2%	11.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	139	1.7%	226	2.6%	62.3%

出所：決算短信、決算説明資料よりフィスコ作成

#### 2. 事業別見通し

事業別売上高の見通しは、射出成形用精密金型及び成形システム事業が売上高3,438百万円（前期比33.5%増）、精密成形品その他事業が5,381百万円（同5.2%減）を見込んでいる。射出成形用精密金型及び成形システム事業は注力している医療用・食品容器用が2,479百万円（同89.8%増）と、前期の受注残高1,406百万円（同32.4%増）の消化と海外でのダイアライザー用金型の大型受注獲得から売上げ拡大を見込んでいる。

精密成形品その他事業は、注力している自動車向けを4,463百万円（前期比2.9%減）と見込んでいる。近年の自動車販売の伸び悩みと円安一服から、2輪向けは堅調な見通しも全体として微減収を見込み、控え目な予想としている。



今後の見通し

利益面では原材料費の高止まりや円安効果が一巡する見通しで、売上総利益率を前期比0.3ポイント悪化の19.1%を前提とし、売上総利益は同5.2%増に留まるとしている。また販管費ではEV関連の開発や人件費などの増加により、販管費比率が前期並みの14.5%として、営業利益で横ばいを予想している。

#### 用途別・事業分野別売上内訳

(単位：百万円)

<金型売上内訳>	20/12期	21/12期	22/12期	23/12期	24/12期	25/12期(予)
医療用・食品容器用	1,320	2,093	1,524	1,502	1,306	2,479
自動車用	684	471	1,029	696	823	595
光学・家電用	69	77	174	209	158	87
情報関連用	39	17	70	6	11	17
その他産業機器用	215	180	225	530	277	260
合計	2,327	2,838	3,022	2,943	2,575	3,438
医療用・食品容器用比率	56.7%	73.7%	50.4%	51.0%	50.7%	72.1%

<成形品売上内訳>	20/12期	21/12期	22/12期	23/12期	24/12期	25/12期(予)
自動車用	2,685	3,504	3,670	4,346	4,595	4,463
情報関連用	679	798	853	674	780	721
光学機器用	26	37	21	16	10	7
食品・医療機器用	84	67	65	66	68	50
家電商品用	55	82	66	64	66	49
その他産業用	57	142	136	155	157	91
合計	3,586	4,630	4,811	5,321	5,676	5,381
自動車用比率	74.9%	75.7%	76.3%	81.7%	81.0%	82.9%

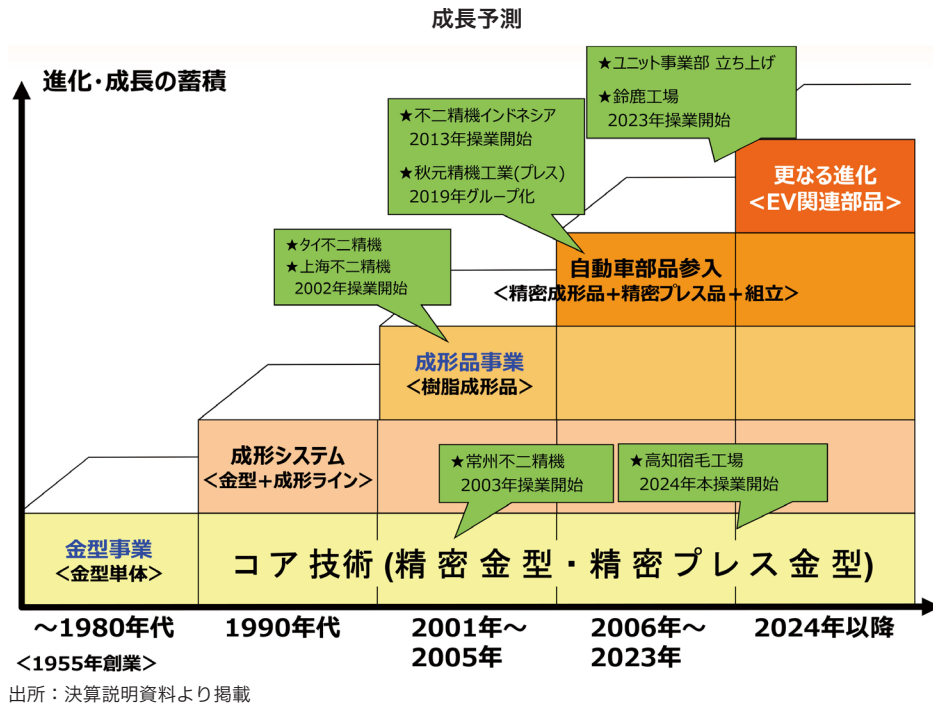
出所：決算短信、決算説明資料よりフィスコ作成

## ■ 中長期の成長戦略

### 成長戦略の下、引き続き自動車関連部品及び医療用精密金型に注力。 新工場稼働により成長を加速させる

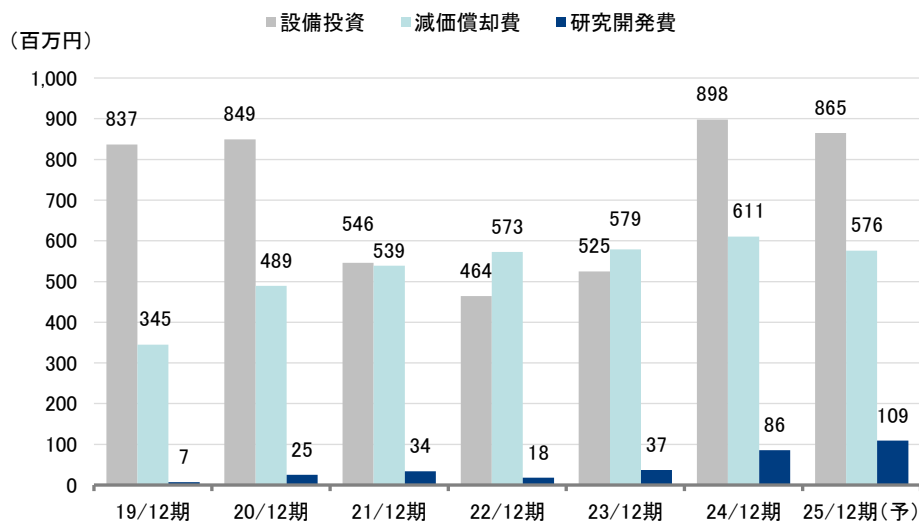
同社は成形品事業の拡大に軸足を置き、コア技術である精密金型技術を生かし、金型から精密成形品へ事業構造の変遷を実行してきた。競争力の源泉である射出成形用精密金型及び成形システム事業では高付加価値の医療・食品容器用金型に注力している。精密成形品その他事業では、自動車用成形品拡大に経営資源を集中、アジア地区での生産拡大により価値の拡大を図っている。

中長期の成長戦略



この成長戦略に基づき、工場の増設、新工場開設、生産効率の改善を加速している。具体的にはタイ・インドネシアの増設に加え、国内でも2023年10月に鈴鹿工場が精密部品のマザー工場として稼働し始めた。同工場は開発中のEV部品ユニットの工場として、2025年6月には生産を開始し、2025年~2026年にかけて品目において7~8品目を投入予定で、2026年以降に本格拡大すると見られる。さらに、高知県宿毛市に開設した精密金型の新工場は2025年1月より本稼働を開始しており、ここではCADによる金型設計、金型部品の精密加工作業を行っている。

設備投資・減価償却費・研究開発費の推移



### (1) 射出成形用精密金型及び成形システム事業

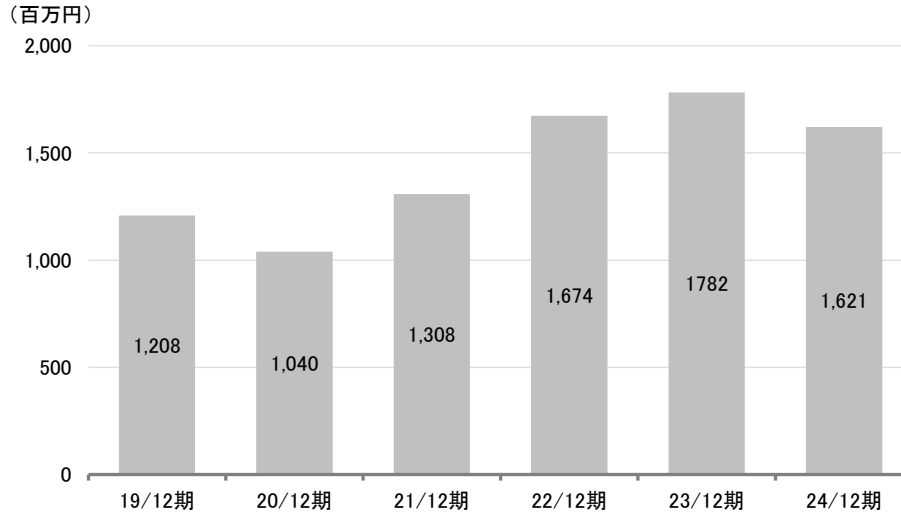
射出成形用精密金型及び成形システム事業では、医療分野に注力する方針だ。医療用・食品容器用の成形品は安全性が重要で、素材として低溶出性などが要求され、透明性、低臭気性、剛性、高圧蒸気滅菌等の耐熱性、耐衝撃性なども必要で、成形難度が高い。

現在、売上げはダイアライザー向けが最も多く、次いで注射器用などとなっている。ダイアライザーは糖尿病の増加を背景に人工透析患者の生命維持には欠かせない中空糸を封入したろ過装置である。デバイスのハウジングは大半が射出成形で作られ、人の生命に直結する製品だけに、金型の成形精度が悪いと血液が透析液の中に漏れ出す恐れや血栓を起こす原因になる。このため同社のような高精度の金型技術を有する企業でないと対応できない。日本の人工透析患者数は、日本透析医学会が実施している統計調査「わが国の慢性透析療法の現況」によると2022年末で慢性透析療法を受けている患者総数は347,474人に上る。ダイアライザーは使い捨てであり、1ラインで月産50万本ライン規模のものも多く、汎用デバイスでもある。ダイアライザーはパーツサイズが大きくシェル（格納部）用金型は2個取り程度の金型となるが、直径30mm程度のシェルの中に中空糸が1万本近く格納されており、血栓を発生させない血液経路が必要で、0.1mm以下の偏心精度が要求される。しかも収縮率の大きいPP（ポリプロピレン）が使用されており、いかに均一に成形できるかが差別化要因となる。現在、団塊世代が後期高齢者となり、今後患者数が拡大する可能性があり、国内需要は緩やかな成長が続くと見られる。

今後の注目点は中国市場の拡大にある。2021年の中国における透析患者総数は88万人（血液透析75万人、腹膜透析13万人）と報告されており、2016年の46.5万人から年平均成長率（CAGR）13.6%で増加している。ただし、人口100万人当たりの透析患者数は630人と、日本（2,550人）や米国（2,100人）に比べ依然低水準に留まっている。この格差は医療アクセスの不均等に起因し、上海市などの沿岸都市では透析施設数が10万人当たり5.3施設に対し、甘粛省などの内陸部では1.2施設に留まる。なお中国では2012年から透析医療が保険適用され、従来の自費負担から回数や金額に制限があるものの保険でまかなえることとなり、透析治療に弾みがついている。さらに政府の「健康中国2030」計画では、2025年までに県レベル病院の90%に透析ユニット設置を目標とし、施設拡充が患者数増加に拍車をかけると予測される。従来の公立病院主体の治療施設に加え、医療機器の国産化優遇策もあり、中国最大の医療機器メーカーや中国健康医療機器最大手企業など中国ローカルメーカーで成長が加速している。具体的には「医療装備産業発展計画（2021-2025年）」により、高性能透析膜の国産化が重点プロジェクトに指定され、山東威高グループは2023年に年間500万枚のポリエーテルスルホン（PES）膜生産ラインを稼働、輸入代替率を15%から2025年に30%へ引き上げる目標を掲げている。中国ローカルは国内向けだけでなく、インドや東南アジア市場に向けてさらなる拡大を目指している。なお日系企業は中国以外での製造拠点構築も進めており、同分野は今後も海外中心に拡大が継続すると見られる。

中長期の成長戦略

### 常州不二精機 売上高推移



出所：同社提供資料よりフィスコ作成

#### (2) 精密成形品その他事業

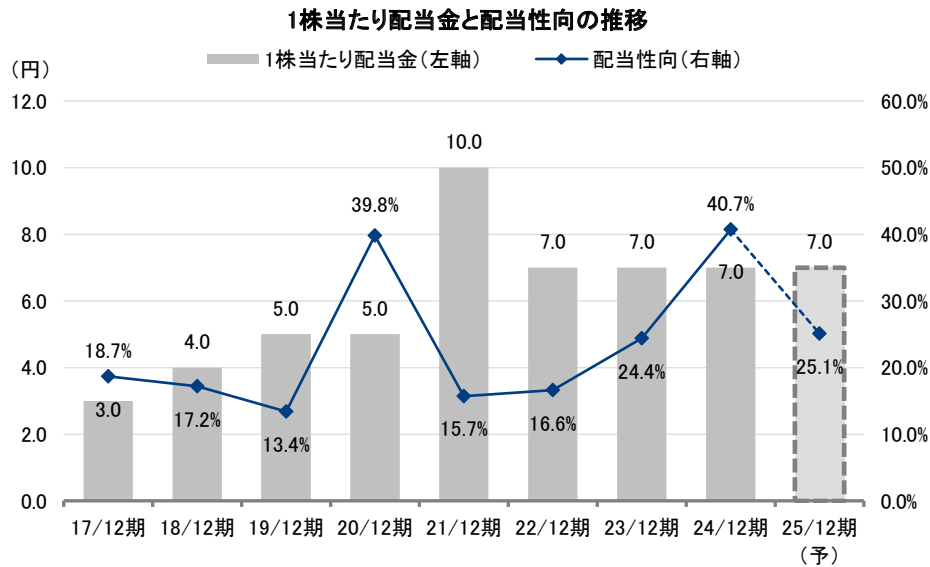
精密成形品その他事業では、自動車部品事業がカギを握る。同社はタイ、インドネシア、中国（上海）で精密成形品の製造を行っている。現在、中国勢のEV攻勢で伸び悩む動きもあり、日系自動車各社の中国市場での苦戦も報じられるなど、環境は決して楽観できない状況にある。ただし同社は2輪向けが5割強を占め、燃料噴射関連、スターターモーター、ECUほかなど、2輪については堅調な販売が続いている。4輪では日系現地法人である日立Astemo、デンソー<6902>、ミクニ<7247>、東海理化電機製作所<6995>、ミツバ<7280>、アイシン<7259>、住友電装、大同メタル工業<7245>などを通じて、トヨタ自動車<7203>や本田技研工業向けを中心にワイヤーハーネス関連、電動ウォーターポンプ、キーレススイッチ、オルタネーターなどの成形品が自動車メーカーに採用されている。今後、4輪生産では軽量化に伴う樹脂化への動きも加わり、台数が伸び悩んでも樹脂成形品需要の拡大が見込める。さらに同社は2019年12月期に精密プレス加工用の金型設計・製作と板金プレス部品、インサート成形品などの製造を行う秋元精機工業を子会社化したが、これにより精密金属部品を金型内にインサートして樹脂成形する「インサート成形品」への対応が可能となった。今回のEV部品ユニットについてもインサート成形品のノウハウが生かされ、シナジー効果が本格化すると見られる。なお同社はEV車向けだけでなく、インサート成形品の採用拡大を目指しており、高付加価値化で同部門の収益性向上も見込める。EV関連部品の本格拡大は2026年になると見られるが、トヨタ自動車のEV化推進などの動きもあり、精密成形品その他事業の拡大の基軸となつてこよう。なお自動車以外では医療向けに微細精密成形品の開発も行っている状況で、今後の展開に注目したい。

2025年12月期までは先行投資による負担増が重しとなるものの、2026年12月期以降はEVユニット部品の本格拡大による自動車関連部品の収益性の向上、医療用精密金型のグローバル展開による売上げ拡大から収益の本格拡大が期待される。

## 株主還元策

### 経営体質を強化しつつ安定した配当継続が基本方針。 2025年12月期は前期と同額の1株当たり7.0円の配当を予定

2016年12月期に13期ぶりに3.0円の復配を行い、その後、2018年12月期に3.0円から4.0円へ、2019年12月期は4.0円から5.0円へ増配してきた。2021年12月期は上場年度後の最高益を記念し、記念配当5.0円を含めた10.0円の配当を実施した。2024年12月期は1株当たり7.0円の配当を実施し、2025年12月期も7.0円の配当継続を予定している。



注：21/12期は記念配当5.0円を含む  
 出所：決算短信、決算説明資料よりフィスコ作成

#### 重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けて作成されていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

#### ■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp